

評価項目 ① 教育理念・教育目的・人材育成目標・学校運営

1977年、大学受験の私塾として久留米の地で創業し50周年の節目を迎えた久留米ゼミナールはチャレンジ・オン（挑戦し続けるという意）という同校の教育の原点に回帰し、次の10年を見据えた人材教育を具体化するため各学科・コースの目標を設定した。

評価項目	教育理念・教育目的・人材育成目標	学校運営
大学受験科	知識一辺倒の従来の教育から脱却し、生徒の思考力や判断力を養成すべく、教師と生徒が共に考え、共に学び「感動を分かち合う予備校」をめざし、目標とする大学の合格のみならず、その先のキャリアパスを見据えた教育、未知の課題に柔軟に対応できる総合力を身につけた人材育成をめざす。	対話重視、双方向型授業、少人数特別授業を展開し、自ら学ぶ力の深化をめざす。その先にある志望校の合格のみならず、大学進学後あるいは大学卒業後のキャリア形成を見越した指導を行っている。
日本語学科	めまぐるしく変化する世界情勢、また多文化共生が進められる日本において、時代の要請に応えられる人材の育成を社会的使命とし、自分の未来を切り拓くことを目指す学生たちの自己実現のための教育・生活支援に、教務・学務・募集担当が連携し、取り組むことができている。	日本の法令及び法務省が定める日本語教育機関の告示基準に基づき、学則、教育課程、学生数、校長・教員資格を順守し、学生募集、在籍管理、福岡出入国在留管理局への報告を適切に行っている。その結果、福岡出入国在籍管理局より15年連続、適正校である旨の通知を受けている。
国際教養科	次代の有為な人材として、基本的な生活習慣、基礎学力そして品格ある日本人としての道徳性を身に付けることにより、社会を生き抜く力を培う。	全日型通信制の特長を活かして、日常の授業や学校行事、生徒会活動などの教育活動全般をとおして、自己の将来の目標を模索する環境を整える。また、「生きる力」を培うために、ソーシャルスキルトレーニング関連の授業や相談事業の充実を図り生徒への支援体制を整える。
共生館 国際福祉 医療カレッジ	多様性のある受け入れ体制主体的に学べるカリキュラム社会で活躍するためのキャリア育成。	社会福祉士および介護福祉士の国家試験合格に導く講義内容およびサポートを行い、特に外国人留学生が学ぶ介護福祉学科にあっては個性と多様性を受け入れつつ、日本の生活慣習を身に付けさせる教育を軸とした学校運営を行う。
5段階評価	4.0	4.0

評価項目 ② 教育活動

評価項目	教育活動
大学受験科	刻々と変化する教育環境を先読みし、生徒密着型の本質を探し求める活動を、部署単位での議論、研究し続けている。また部署横断的な新しい取り組みも見られ始めていることは大きな前進である。さらなる複合的、重層的な教育サービスの提供に向けた取り組みが期待できる。
日本語学科	学生たちが目標とする進路に必要な日本語力と進路選択に役立つキャリア教育の2本立てでカリキュラムを編成し、実践している。また、日本社会に適応し、将来、活躍できる人材育成のために、日々の学校生活の中でも日本の文化や習慣を教えるようにしている。 対教員に関し、外部研修とし、日本語教育の学習アプリの使用など新しい分野の日本語教育について学ぶ機会を設けた。今後、教室活動の中でも教育のICT化を進めていきたい。
国際教養科	校外での活動や外部講師招聘などの教育活動が制限される中で、教育課程に沿った正課の授業の充実に加え、生徒会活動の活発化、各種資格取得を希望する生徒数の増加など主体性・積極性の向上が見られた。

共生館 国際福祉 医療カレッジ	<p>前年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの制約を受けながらの教育となったが、介護福祉学科、社会福祉専攻科および社会福祉士通信学科の学生、受講生を無事修了させることができた。</p>
5段階評価	4.5

評価項目 ③ 生徒指導

評価項目	生徒指導
大学受験科	<p>勉強においても就業においても、基本的な規則正しい生活習慣を身につけていることが目標達成の大前提であるとの考えから、各担任の受持ち生徒数を少数にし、密接な生徒指導ができる体制づくりを行っている。また、始業前の生徒・学生への連絡等を密にし、定期的に学生寮における生徒・学生の生活実態を把握するために訪問を行い、常に生徒・学生の変化に気づく体制を整えている。</p>
日本語学科	<p>日頃から学生とのコミュニケーションを密に取り、出席及び生活状況を常に把握し、安全で有意義な留学生活を送れるようなサポート体制を整えている。進路指導に関して、クラス担任による細やかな個別指導と進路担当からの情報提供をうまく活用し、一人一人の進路決定を支援できている。その結果、進路選択のミスマッチが少なく次のステージに進んでおり、学生の満足度も高い。</p>
国際教養科	<p>社会人として備えるべき立ち居振る舞いを目標に、制服の着こなし方、挨拶・礼儀、時間励行など基本的な生活習慣を身につけることを念頭に日常的な指導を継続することができた。</p>
共生館 国際福祉 医療カレッジ	<p>新型コロナウイルスへの感染者が初めて学内で発生。幸いにもクラスターは発生せず、学内感染拡大を防ぐことができた。毎日(土日祝日含む)の体温測定と報告を徹底させ、常に学生たちの健康状態を把握することを心掛けた。福祉施設に対しても被害を与えないよう細心の注意を払い実習やアルバイトに従事させた。</p>
5段階評価	4.0

評価項目 ④ 特別活動

評価項目	特別活動
大学受験科	<p>コロナ禍になって本年度はスポーツ大会等のレクレーション活動は残念ながら中止となったが、大学共通テスト前のイベント(出陣式)は三密回避と感染防止対策を講じて何とか実施ができ、学生のモチベーションを引き上げることができた。年2回の保護者を交えた3者面談を今年度は各教室1組限定とし、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら保護者と生徒の学習深度確認の連携が取れた。</p>
日本語学科	<p>新型コロナウイルスの影響で例年通りの進学指導としての進学月間を実施することができなかったが、対面ではなく、オンラインでの説明会を実施(大学、専門学校合わせて20校)。オンラインだからこそ、参加していただいた大学・専門学校もあり、幅広い情報を学生たちに提供できた。</p> <p>日本文化の体験など例年通りには行えなかったが、クラスごとにできる範囲で季節の文化行事などの紹介をおこなった。保護者や現地の教育機関を対象に卒業式のLIVE配信を行った。</p>
国際教養科	<p>校外活動やボランティア活動への参加が制限される中で、学校周辺の美化活動や校内の特別活動など生徒の自主的な活動も盛んになった。</p>

共生館 国際福祉 医療カレッジ	<p>前年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大の抑止に注力したため、特別活動等、学業と直接的に関わらない活動については極力控えた。</p>
5段階評価	3.5

評価項目 5 学修成果

評価項目	学修成果
大学受験科	<p>国公立大学の平均合格率85%超を維持。医学部や難関大学においても目標を達成し、学生、保護者の要望に応える結果を出すことができている。</p>
日本語学科	<p>新型コロナウイルスの影響で来日が送れ、学習期間が短い中、法務省告示基準の一つである「課程修了者の日本語取得状況等」の報告では基準該当者割合は92%であった。進路に関しても、各個人の将来を見据え、本人たちが納得した進路を決めることができた。昨年の課題であった卒業生のその後の追跡も、進学先に確認を取っている。</p>
国際教養科	<p>卒業生25名の内、進学(大学および専門学校)は17名で進学率は68%。就職は1名である。アルバイト2名、就労支援事業所2名。進路未決定の者が3名という結果になった。</p>
共生館 国際福祉 医療カレッジ	<p>社会福祉専攻科75%、介護福祉学科47%(留学生のみ受験)と、全国平均を大きく上回る国家試験合格率を達成することができた。前年度の反省のうえに立ち、教員たちの献身的な指導が実った。</p>
5段階評価	4.0

評価項目 6 生徒・学生支援

評価項目	生徒・学生支援
大学受験科	<p>生徒の学習意欲に随時応えため職員室のオープン化し、開館中はいつでも質問指導ができる環境をつくる。また、生徒の精神的不安解消のため、保護者との連携を密にし、学校と家庭の両面からフォローできる体制を整えている。</p>
日本語学科	<p>【奨学金】 日本政府などの奨学金のほか、本校独自に日本語能力試験N1,N2合格者奨励制度もあり、多くの学生のモチベーションや励みとなっている。</p> <p>【住環境】 全ての新生が入居できる学校所有の寮を完備し、専従の職員が生活全般から健康管理まで24時間対応している。また民間アパートへの居住を希望する学生には不動産会社の情報を提供するなどしてサポートしている。</p> <p>【入国時】 来日時の空港出迎え、市役所での住民登録、国保加入、銀行での口座開設手続き同行、携帯電話購入案内など、初めての留学生生活を安心して過ごせるための手厚い支援ができている。</p> <p>【オリエンテーション】 入学時に、事故や災害、健康に関するオリエンテーションを実施し、消防防災センターにて防火・防災体験に参加するなど安全な留学生活を送れるよう備えている。</p> <p>【健康管理】 年に一度、医療機関で健康診断を実施。また、月に一回、保健所の指導により、各クラス担任による健康チェックを行っている。万が一、病気や怪我になった場合は職員が医療機関に同行するなど、健康に留学生活がおくるための支援体制ができている。</p> <p>【傷害保険】 万が一の事故や怪我に備え、全学生は傷害保険に加入している。</p>

国際教養科	特別な支援や配慮を必要としたり、学習、対人関係に悩む生徒に対して、校内のSSTの取組によって手厚い支援・助言をする機会を設定することができた。家庭や医療機関・外部の支援団体と連携して個々の生徒の育成にあたった。
共生館 国際福祉 医療カレッジ	引き続き、日本学生支援機構の貸与型奨学金、福岡県修学資金貸付制度を活用した。
総合評価	単なる学習指導ではなく、将来の目標に向けたステップアップのため、経済面や精神面といった多角的な支援体制を整えている。
5段階評価	4.0

評価項目 7 教育環境

評価項目	教育環境
大学受験科	コロナ禍による学習不安を解消すべく、オンラインによる学習フォローやネット環境にない家庭向けのDVD作成を行った。また、全玄関に検温器・手指消毒器、全フロアに手指消毒器、全教室に換気扇・空気清浄機を完備している。さらに、授業終了後の休み時間には、利用したすべての机や椅子等の清拭作業を行っている。
日本語学科	外国人留学生専用の校舎にて日本語および日本文化を習得し、生活、進路相談を受ける環境が整っている。コロナ禍では全教室への加湿機能付き空気清浄機を設置し、換気、授業終了後の消毒を実施し校内での感染防止に努めた。コロナ感染拡大防止の為、オンライン授業の設備、体制を短期間で整え、対面授業からオンライン授業への切り替えもスムーズに行うことができた。
国際教養科	施設・設備については、新型コロナウイルス感染対策に留意して、特に換気に関する学習環境に細心の注意を払った。
共生館 国際福祉 医療カレッジ	建物の老朽化に伴う不具合や、教育環境の整備に積極的に取り組んだ一年であった。特にインターネットの接続環境の改善には注力した。
総合評価	学習空間としての教育環境はやや改善されたが、ハード面やネット環境の整備においては課題が残る。
5段階評価	4.0

評価項目 8 学生募集

評価項目	学修成果
大学受験科	入試制度改定による受験不安や、コロナ禍による経済不安による安全志向による現役進学思考により浪人生減少が見られたが、担任業務における生徒や保護者との密なやり取りの中で不安を払拭させることができ、前年以上の合格実績に繋げることができた。
日本語学科	4か国語によるホームページ・パンフレット・募集要項、youtube、Facebook等、SNSを活用し、学園理念・教育目標・カリキュラム・授業料・学校生活等の情報提供を行っている。学生募集は、信頼のおける海外の大学・高校等の教育機関、日本語学校や日本語学校を併設した留学センター等と提携し、その在学・受講生から入学者を選抜している。現地での筆記試験・面接および書類選考で、留学の目的、日本への適応力、留学経費支弁能力を総合的に判断し合否を決定しているが、昨年度からは学校説明会や面接はオンラインで行った。提携先からの報告も評価、合否判断材料の一つとしている。
国際教養科	コロナ禍により募集活動を工夫しなければならない状況下で、過去の広報活動の成果として、最低限の新入生を確保することができた。

共生館 国際福祉 医療カレッジ	全学科、学生募集を停止。
5段階評価	3.5

評価項目 9 法令等の順守

評価項目	法令等の順守
	学校運営に必要な変更が生じた場合には遅滞なく監督官庁への届け出、報告を行うよう引き続き努力している。SNSをはじめとするネット上での交流やPRの機会が増える時世に、個人情報の取り扱いがますます重要となっているため、就業規則に個人情報取扱規程および特定個人情報取扱規程を追則して教職員に周知努力をしている。
5段階評価	4.0

評価項目 10 社会貢献

評価項目	社会貢献
	<ul style="list-style-type: none"> ・専修学校久留米ゼミナール、共生館では社会人向けあるいは学生向けの資格取得や大学入学試験の会場として他団体に校舎を貸与している。 ・令和3年度日本語教育人材の研修プログラム普及事業「生活者としての外国人」に対する日本語教師初任研修共催 ・久留米市役所職員向け研修「やさしい日本語研修」実施 ・公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会様主催令和3年度多文化交流事業ミニ講座「やさしい日本語講座」実施
5段階評価	4.0

評価項目 11 国際交流

評価項目	国際交流
	<p>大学受験科では大学進学を目指す留学生(主に、中国・ベトナム)に留学生特進コースを設置して、大学および大学院を目指す留学生に学習・進路指導を行っている。</p> <p>例年であれば、ウォーキングイベント・久留米つつじマーチ、国際交流イベント・くるめこくさいDAYに毎年、日本語学科が全校あげて参加し、また行政姉妹都市の中国安徽省合肥市や大連市の提携校からは高校生・大学生の短期研修団を受け入れ、日本文化体験、ホームステイなどの交流を行うなど、市民との交流や異文化理解など、地域の国際化に取り組んでいるが、今年度も引き続き新型コロナの影響ですべてのイベントが中止になってしまった。</p>
5段階評価	3.0

総 括

2022年(令和4年)に創業55周年の記念の節目を迎え、大学受験予備校(久留米校、佐賀校、医学部進学コース)、日本語学科、単位制・通信制高校部門、福祉の専門学校を運営。また高齢者介護施設(つつじ苑)とともに法人グループとして総合的な学びの場と収益体質の強化に努めている。

財務情報の公開については、別紙参照。